理事長就任ご挨拶

社会福祉法人大分いのちの電話
理事長　金子進之助

このたび、大分いのちの電話第二代理事長に就任いたしました。また業務担当理事として勝谷齊事務局長も就任いたしました。ともどもによろしくお願いいたします。

これまで、理事長として大分いのちの電話を牽引し、ご指導いただきました淵野耕三先生，初代事務局長（業務担当理事）の小河清三先生にはまだまだ及びもつかないものですが、それでもこれまで理事やスーパーバイザーとしてお二人の側で学ばせて頂いたこともありますので､各役員の方々、事務局の方々、そして何よりもボランティアとして支えてくださっている皆様にご協力頂きながら、これからの大分いのちの電話を運営して参りたいと思います。また我々にとっては、自殺対策担当部局の大分県福祉生活部障害福祉課のご指導・支援を頂き、さらには賛助会員や尊いご寄付をしてくださる方にも支えられていることを肝に銘じて参ります。

大分いのちの電話は、1986 年 7 月 19 日開局以来、年中無休の 24 時間体制で電話相談を受けて 30 年が経過しました。さまざまな相談がありますが、自殺を考えるという電話相談の架け手（相談者）に寄り添い、その苦衷を受け止めて自殺予防を行うのを第一番目の目的として掲げています。

全国の自殺件数は近年まで、３万件を超えていましたが、政府の努力や、社会情勢の変化によって最近ようやく２万件台に低下しました。大分県においても　平成 20 年度において 279 件（自殺率：人口 10 万比　23.4）が平成 27 年度には 190 件（同 16.4）へと低下してきました。このことは、国や県における各施策のたまものと承知していますが、当電話においても、いささかの役割を果たしてきたのではないかと自負いたします。

このほかの相談として「人生問題」や「ひとり暮らしでさびしく不安」「孤独で話し相手がほしい」「家族から疎外されている」といった孤独を訴える内容、「生きる気力がない」「どう生きればいいのか」「考えが前向きになれず生きるのがしんどい」など生き方に関する相談もあります。「人生問題」に次いで男女ともに多いのが「精神問題」です。心の病と思われる人からの相談が多く、精神的に追い込まれているケースも増えていす。

これらの相談を受けるのがボランティア相談員の皆さんです。相談員は、応募以来、絶えず研修を重ねています。このようなボランティアの形は他にあまり類を見ないのではないでしょうか。大分いのちの電話では実働 160 人ほどのメンバーが相談事業を支えてくださっています。頭が下がります。

これから私が考えないといけないのは、現在のボランティアの方を大切にして、体制を維持することはもちろんですが、ボランティア応募者の減少や、財政的には寄付金の大幅な減少がみられるなど、運営的な困難への対応です。皆様のお力をお借りしながら、努力いたしますので、なにとぞ各位のご協力ご支援をよろしくお願いいたします。